





令和8年度

東員町立城山小学校

〒511-0233 員弁郡東員町城山1丁目48番地

学校教育目標

「仲間とつながり 高め合う子どもの育成」

【めざす学校像】

「明日が待ちどおしい学校」「子どもが主役の学校」をめざして

【めざす子ども像】・・・チョウの里 城山

- ・挑戦する子
- ・考え動く子
- ・のびのびあいさつする子
- ・最後までやりぬく子
- ・友達を大切にする子

【研修主題】

「児童一人ひとりが主役となる授業の創造」

～休み時間に見せるような、子どもたちの生き生きとした姿があふれる授業をめざして～

【重点課題】

(1) 教師と子どもの「基本的信頼感」の構築

- ① 安心できる学習集団づくり(3:自分も周りもメタ認知・道徳教育の推進)
- ② 「関わる力」育成のための研修の充実(2:安心・いきいき)

(2) だれ一人取り残さない D層10%未満への取組

- ① 「わからない」と言える授業づくり(1:しっかり聴いてしっかり話す)
- ② 学力向上に向けた取組(ボランティア、チーム学校での子ども支援)

(3) 保護者・地域との連携

- ① 「子育て20のポイントの理解」の向上(東員町指導理念)
- ② 地域連携の取り組み(城山音頭・学習ボランティア)

(4) 子どもの自治的活動の推進

- ① 児童会による人権フォーラム
- ② あいさつ推進、いいところ見つけの取組



<たてわり班活動>

城山小学校では、16年一貫教育プランを受けて、たてわり班活動を大切にしています。異学年とのかかわりを大切にし、教えたり、教えてもらったりする中から、達成感や周囲からの承認を得て、社会的に勤勉な人格の基礎となる力が育まれます。

城山小学校校歌

作詞 佐藤ひろし
作曲 欠塚 勉

一、お城の跡の丘の上

白い校舎の三角屋根は
弁天山と背くらべ
ぼくとわたしも励ましあって
大きく強く伸びていく
楽しい城山小学校

二、みどりと花の町並木

並ぶひとみのかがかやく窓に
ひばりの歌が呼びかける
ぼくとわたしも声かけあって
たしかな力つけていく
明るい城山小学校

三、ぎんぎら光る員弁川

澄んだ青空展望台も
広い世界につづいてる
ぼくとわたしも手をとりあって
あしたに夢を追っていく
希望の城山小学校

令和8年度年間行事計画

令和8年度年間行事計画	
1学期	
4月8日	令和8年度始業式
4月9日	令和8年度入学式
4月24日	たてわり遠足(予備日30日)
4月28日	授業参観、PTA総会、学校説明会、学級懇談会
5月8日	第1回学校運営協議会
6月3日	授業参観、引き渡し訓練(午後)
6月26日	5・6年デイキャンプ
7月10日～15日	個別懇談会
7月17日	1学期終業式
2学期	
9月1日	2学期始業式
10月8日、9日	6年修学旅行
10月20日	運動会(午前中)
11月4日	町教研の日
12月2日	マラソン記録会
12月16日～21日	個別懇談会
12月23日	2学期終業式
3学期	
1月8日	3学期始業式
2月6日	音楽発表会(8日振替休日)
2月17日	一日入学・入学説明会
3月18日	令和8年度卒業証書授与式
3月24日	令和8年度修了式

<城山小学校いじめ防止の取り組み>

年間3回の児童アンケート、1学期、2学期のQ-U調査などから、子どもの様子を把握します。
また、学校説明会において、「いじめは絶対に許さない。お子さんの様子で少しでもおかしいことがあれば、教えてください」と保護者にも啓発。休み時間も含めて、複数の目で子どもの様子を確認することで、いじめを未然に防ぎ、早期発見を目指します。

<体力向上の取組>

マラソン記録会、2学期後半からのなわとびの取り組みで、体力向上を目指します！

<外国語活動・英語>

3年生、4年生で週1回、教科としての英語は5年生・6年生で週2回進めています。



令和8年度 研修方針

研修主題

東員町立城山小学校

児童一人ひとりが主役となる授業の創造

取り組みステップ1 合言葉1:しっかり聴いてしっかり話す

「聴く」を軸とした学習集団づくり

児童が主役の授業の環境づくり

①□ [ききかためいじん] [はなしかためいじん]を活用し「相手の目を見て聞く」等、学習規律の確立を。

②□ 以下の指示物を示し、できている児童をほめたり、認めたりすることで、「聴くこと」の大切さを学級に浸透させる。

③□ 以下の指示物を示し、できている児童をほめたり、認めたりすることで、「聴くこと」の大切さを学級に浸透させる。

④□ 以下の指示物を示し、できている児童をほめたり、認めたりすることで、「聴くこと」の大切さを学級に浸透させる。

⑤□ 以下の指示物を示し、できている児童をほめたり、認めたりすることで、「聴くこと」の大切さを学級に浸透させる。

⑥□ 以下の指示物を示し、できている児童をほめたり、認めたりすることで、「聴くこと」の大切さを学級に浸透させる。

⑦□ 以下の指示物を示し、できている児童をほめたり、認めたりすることで、「聴くこと」の大切さを学級に浸透させる。

⑧□ 以下の指示物を示し、できている児童をほめたり、認めたりすることで、「聴くこと」の大切さを学級に浸透させる。

⑨□ 以下の指示物を示し、できている児童をほめたり、認めたりすることで、「聴くこと」の大切さを学級に浸透させる。

⑩□ 以下の指示物を示し、できている児童をほめたり、認めたりすることで、「聴くこと」の大切さを学級に浸透させる。

取り組みステップ2 合言葉2:安心・いきいき

「分らない」と、自分から言える教室

安心感・信頼感のある仲間づくり

③□ 「分らない」は「学びたい」という意欲の表れ。困り感のある児童【視点児童】に寄り添い「分らない」を出発点、「分かった！」を授業のゴールへ。

④□ 安心して、自分から「分らない」と言える教室をつくるために【あたたかい聴き方】【やさしい話し方】を活用し、「対話的な学び」の充実を図る。

★あたたかい聴き方★

【わかるよ・うんうん・もう一回・なるほどね 言うてくれる？】

【出る……出してもらう？】

【理由……なんで？理由はある？】

★やさしい話し方★

【どう思うんだけど……どう……どう？】

【指示……〇を見て欲しいんだけど】

【例示……例示はこんな感じで】

【問い……〇って聞いていい？】

【参加……〇をしておいて】

【確認……ここまでどう？〇でいい？】

【あたたかい聴き方】

⑤□ 話し手が思っ自分の思いを伝えたいくなる学習と共感の聴き方。

⑥□ 「同じです」「違います」の通り一遍の反応ではなく、「分らない」が言える反応をめざす。

【やさしい話し方】

⑦□ まるで休み時間に友だちと話しているような、生き生きとした姿が飛び出すフレンドリーな話し方。

⑧□ 聞き手を意識し、例示等を使い呼応する話し合いをめざす。

取り組みステップ3 合言葉3:自分も周りもメタ認知

チーム学校で取り組むこと | 「聴く」を軸とした学級 分らないと言える教室 めざす授業像の体現

どのように学ぶか | ステップ表・ノート学習

⑨□ 【ステップ10】を活用し、1年間をめざす授業像を子どもたちと共有。最終目標は友だちの意見を聴いて、考えて、自分の出席でつなげて話すことである。

⑩□ 自分の考えを自由に表現できる【ノート】を活用し、「意見・根拠・具体例」の3つで論理的に表現する。

何を学ぶか | 学びのシビレ・達成感づくり

⑪□ 「学びのシビレ」で、単元での学びの力を身につけるのかを子どもに示す。どの子にとっても「主体的な学び」になるような価値のある課題を提示する。

⑫□ 研修の重点は「国語」とし、読解力の向上を重点課題に、1人1人年1回1回を目標に研究授業の実施。

何を学んだか | 授業改善・授業時間

⑬□ 子どもは、CLM、同僚の声、IRTの結果を基に授業改善をおこない「わかる授業・深い学び」。

⑭□ チームで始まり終わる、45分間の授業の確保へ。城山スタイルに押されなく、子どもたちに力をつけるための意図を明確にして。

※1時間の学びは目安です。前掲図に更に変更しよう！

参考文献：高木麗郎（2015）『関わる学力、変える授業』三省堂



令和8年度 特別支援教育推進計画

東員町立城山小学校

特別支援教育推進計画

基本理念

「障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けて支援するという視点に立ち、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う。」

特別支援学級経営方針

子どもと保護者に関して

①□児童の実態（能力・特性）を把握し、個に応じた教育を行う。

②□集団指導と個別指導を適切に組み合わせて指導する。

③□交流学級との連携を密にし、児童が安心して学べる環境を考え、理解が深まるように支援する。

④□障がいの名にとらわれるのではなく、個々の困り感を見逃さず、個に応じた指導を考案する。

⑤□児童と心を近づけ、信頼関係の上に指導することを心がける。

⑥□保護者との連携を大切に、学校と家庭が協働して育てる姿勢を基本とする。

⑦□発達検査等の客観的データを参考にして、児童の成長を確認したり、困り感を把握したりして、より良い指導に生かす。

教職員に関して

⑧□全教職員が子どもたちの実態（能力・特性）、状況を把握し、理解を得る。

⑨□保護者との連携を密にし、協働して指導できる関係を構築する。

⑩□担任・学習支援員をはじめ、全職員は守秘義務に努め、人権尊重の意識を持って指導する。

C L M 7つのポイント

Point 1 見通しを持たせる

Point 2 注目をさせる

Point 3 視覚で支援する

Point 4 指示の仕方を工夫する

Point 5 モデルで示し行動を促す

Point 6 褒め方と場面づくりを心がける

Point 7 褒めの三重構造を意識する

すべての子どもにとって分かりやすい支援を！

特別支援教育支援体制について

特別支援教育校内推進委員会（構成員）校長・教頭・特支コーディネーター・特支担（交流学級担）

特別支援学級担任 【なかよし1組・2組(知時) 3組(自情)】

・校内の関係者や関係機関との連絡調整(巡回相談・教育相談)

・校内特別支援教育推進委員会の企画・運営

・通常学級在籍で支援を要する児童についての相談、学級へ巡回

・時間割支援体制の連絡、調整

・保護者の相談

・個別の指導計画の取りまとめ(特支・通級に遡る児童・通常籍で支援を要する児童は作成する。)

・幼稚園・保育園・中学校との連携

・くわだ等専門機関との交流・連絡・調整

交流学級担任・教科指導担当教員

・合理的配慮の視点を大切に、指導、対応を心がける。

・個別の指導計画、巡回相談の記録などを参考にし、交流学級での学習を保障する。

連携していくために

・並進の進捗を週案B O Xへ入れる。(水曜日まで)

・急な時間割変更があれば、必ず特支担任に伝える。

学習支援員

・特別支援学級担任や交流学級担任、教科指導担当教員と連携し、特別支援学級籍の児童を中心に支援を行う。